○外來草二三を記錄する（久内清孝）Kiyotaka. HISAUCHI : Some peregrine eweds

終戰後にわかに外來雜草が各地で採集されその度ごとに報告されているが，余もこゝにいさゝか仲間入りをしよう。最近横濱の農林省動植物檢疫所調査課の植物防疫官である遠藤武雄氏が，職務上に集められたものを見ると，其内に *Sida spinosa* L.（アメリカキンゴジカ，奥山氏新稱）があつた。葉は楕圓形，細齒緣，裏面灰色で2本の針形の托葉を有するもので，學名は托葉の形に因んだものである。*Lathyrus Ochrus* DC. もあつた。地中海岸のもので，小葉片の發達は惡く，殆んど卷ヒゲに化し，總葉柄はあたかも，單葉狀を呈しその頂部に 2 個の卷ヒゲを有する如く見え，莖の上部ではときに 2 個の小葉片を現すも中下部では單葉狀の柄だけである。花は葉腋に1個，長梗を有し花冠は白色。これをヒゲレンリソウと新稱する。次は *Amaranthus angustifolius* M. Bieb. の名で Reichenbach の Icones に圖說しあるものに該當するものである。これをヤセアオゲイトウと呼ぶ。但し同名の別物もあるから學名は更に檢討を要する。尙余は本誌本卷6月號 (p. 184) で *Coronilla scorpioides* は曾て記錄されツリシャクジャウの和名が與えられたが現在其所在が不明であると書いたところ，相州藤澤市の淺井康宏氏が，國立科學博物館へ送られた腊葉によれば，最近同市に外來植物としてまた姿を現していることが判つた。

また，本誌 25 卷 9-12 號 (p. 218) にギンサカズキは銀杯草の訓よみのように書いたが，それは逆でギンサカズキが正しく，寧ろ園藝大辭典に私が引ずられたのである。そうして，ギンサカズキは牧野先生が本誌6卷6號 (P. 200) で公けにされた新稱であつた。こゝに訂正して責任を明かにする。即ち *Nierenbergia rivularis* Miers の和名はギンサカヅキ（牧野 1929）でギンバイソウ，銀杯草はその轉化である。

○歸化植物報告（奥山春季）Shunki OKUYAMA : Some naturalized plants.

ハゴロモイヌホホヅキ（新稱）*Solanum triflorum* Nutt. 葉が羽狀に深裂するイヌホホヅキ近似の一種で，花は白く漿果は熟せば徑 1cm 許あり，綠色でイヌホホヅキの黑熟するのと異なる。昭和 23 年 6 月 12 日白子森藏氏が東京世田谷中里の路傍で見出した。たつた一株しか無かつたとの事であるから一時的のものかも知れない。北米原產の一年草である。

アメリカキンゴジクヴ（新稱）*Sida spinosa* L. 昨年群馬縣生物研究會の採集會に參加された清水文顯氏が太田市の飛行場あとから採集したという *Sida* の一品の鑑定を求められたが，上記の學名のもので熱帶アメリカに廣く分布する種類だという事がわかつた。文獻によれば1年草だとの事。葉は長楕圓或は更に細長い。花は腋生で黃色，徑 1 cm 許，蒴裂片は三角形である。又淺井康宏氏が神奈川縣藤澤にて昨年 6 月採集して居り，博物館の第 15 回腊葉展に出品された。